

中央公論

昭和20年12月1日第三種郵便物承認 平成22年5月10日発行・発売（毎月10日発行・発売）1514号第125年第6号

三国志の秘密に迫る

曹操の墓は本物か

橋下vs.平松 大阪の仁義なき戦い

助かる病院の見極め方

ここに住んだらがんに…

体験的予防術を紹介

特集

がん 生き残り術

活字メディアが消える

特集

あきれた 日本政治

今さら病院に
来られてもね…

ほんとうに
あなたで大丈夫？

2010
JUNE
launched
in 1887

6

衝撃、全国市区別 がん死亡格差

福島安紀

医療ジャーナリスト

命に驚きの市区格差

がんで命を落とす人が、年間三四万人を超えた。自身が闘病中、あるいは身近に体験者がいる方も少なくないはずだ。「がんも自殺もともに救える命がいつばいあるのに、次々と失われているのは政治や行政、社会の対応が遅れているからです」

故・山本孝史参議院議員が、自らがんを告白することで成立した「がん対

策基本法」が施行されてから三年が過ぎた。がん患者の声を受けて作られたこの法律が、がんによる死亡者の減少とともに目指したのは地域格差の解消だった。しかし、

「地域格差はなくなるどころか、がん対策の格差はむしろ拡大している懸念がある。しかも、同じ都道府県の中でも、実はがんの死亡率には市区によって大きな差があるように見える」

国のがん対策推進協議会委員で日本

医療政策機構がん政策情報センター長の埴岡健一氏は、そう指摘する。

では、市区のがんの死亡率には、どの程度の差があるのだろうか。地域格差の結果を見る指標として、都道府県別のがん年齢調整死亡率は公表されているが、市区別がん死亡率は公表されていない。そこで、厚生労働省が「人口動態統計特殊報告」の中で公表している「がん標準化死亡比」を利用することにした。

がん標準化死亡比 市区上下 30位 (人口10万人以上)

小数点二位以下省略

BEST30

WORST30

BEST30					
		総 数			
	地 域	数 字	地 域	数 字	
1	東京都 国分寺市	80.1	静岡県 掛川市	77.0	
2	静岡県 掛川市	80.7	静岡県 藤枝市	80.3	
3	静岡県 藤枝市	81.0	沖縄県 うるま市	81.0	
4	長野県 飯田市	81.5	静岡県 磐田市	82.1	
5	東京都 練馬区	81.6	岡山県 津山市	84.0	
6	東京都 三鷹市	81.9	長野県 飯田市	84.9	
7	静岡県 浜松市	83.8	三重県 桑名市	85.6	
8	埼玉県 所沢市	84.2	静岡県 浜松市	85.8	
9	長野県 上田市	85.7	千葉県 成田市	86.5	
10	静岡県 磐田市	85.8	鹿児島県 鹿屋市	87.8	
11	東京都 青梅市	86.1	三重県 松阪市	88.0	
12	三重県 津市	86.4	三重県 津市	88.3	
13	三重県 松阪市	86.6	東京都 青梅市	88.3	
14	千葉県 流山市	86.8	愛知県 稲沢市	89.2	
15	長野県 長野市	87.1	広島県 東広島市	89.4	
16	岐阜県 各務原市	87.4	滋賀県 東近江市	89.5	
17	沖縄県 浦添市	88.0	長野県 長野市	90.4	
18	東京都 小金井市	88.3	山口県 山口市	90.5	
19	東京都 杉並区	88.4	愛知県 刈谷市	90.8	
20	三重県 鈴鹿市	88.6	新潟県 新発田市	90.9	
21	鹿児島県 鹿屋市	88.7	岡山県 倉敷市	91.0	
22	東京都 目黒区	88.7	徳島県 徳島市	91.2	
23	熊本県 八代市	88.8	愛知県 小牧市	91.3	
24	長野県 松本市	89.2	鹿児島県 霧島市	91.5	
25	東京都 小平市	89.2	広島県 廿日市市	91.5	
26	愛知県 豊田市	89.2	愛媛県 新居浜市	91.5	
27	東京都 八王子市	89.4	東京都 日野市	91.7	
28	東京都 武蔵野市	89.4	三重県 鈴鹿市	91.7	
29	埼玉県 新座市	89.6	静岡県 富士宮市	91.8	
30	宮崎県 宮崎市	90.0	岩手県 花巻市	91.8	

WORST30					
		総 数			
	地 域	数 字	地 域	数 字	
1	兵庫県 尼崎市	125.2	東京都 台東区	128.6	
2	青森県 弘前市	124.7	兵庫県 尼崎市	119.3	
3	青森県 青森市	122.7	福岡県 久留米市	118.9	
4	大阪府 大阪市	121.1	大阪府 大阪市	118.6	
5	北海道 小樽市	119.3	東京都 墨田区	118.3	
6	東京都 台東区	119.2	北海道 釧路市	117.3	
7	東京都 墨田区	119.1	大阪府 松原市	116.9	
8	大阪府 門真市	119.1	大阪府 大東市	116.9	
9	福岡県 飯塚市	119.1	東京都 江東区	116.7	
10	福岡県 大牟田市	118.2	大分県 別府市	116.4	
11	和歌山県 和歌山市	117.7	東京都 港区	116.3	
12	東京都 荒川区	117.0	東京都 江戸川区	116.0	
13	大阪府 東大阪市	116.8	東京都 葛飾区	116.0	
14	北海道 函館市	116.2	大阪府 守口市	115.5	
15	大阪府 大東市	116.2	青森県 弘前市	115.1	
16	東京都 江東区	115.9	東京都 荒川区	114.7	
17	福岡県 北九州市	114.1	佐賀県 佐賀市	114.0	
18	北海道 釧路市	114.1	福岡県 北九州市	113.5	
19	福岡県 久留米市	112.9	東京都 足立区	113.3	
20	東京都 江戸川区	112.7	大阪府 東大阪市	113.1	
21	大阪府 八尾市	112.7	埼玉県 川口市	113.0	
22	佐賀県 佐賀市	112.6	大阪府 門真市	113.0	
23	大阪府 松原市	112.5	茨城県 土浦市	112.4	
24	大阪府 和泉市	112.3	北海道 小樽市	112.2	
25	栃木県 佐野市	112.1	東京都 北区	112.2	
26	東京都 葛飾区	111.7	青森県 青森市	111.9	
27	宮城県 石巻市	111.6	福岡県 春日市	111.6	
28	大阪府 堺市	111.5	兵庫県 神戸市	110.9	
29	長崎県 佐世保市	111.2	東京都 東久留米市	110.8	
30	大阪府 富田林市	111.1	新潟県 三条市	110.7	

データソース：厚生労働省人口動態統計特殊報告「平成15年～19年人口動態保健所・市区町村別統計」
加工：日本医療政策機構・がん政策情報センター

市区別がん標準化死亡比の中から人口一〇万人以上の都市に絞って、上位三〇位と下位三〇位を並べたのが上の表だ。ランキング表は、すべて、日本医療政策機構がん政策情報センターが作成した。人口は、二〇〇五年国勢調査(同年十月一日現在)を基準とし、死亡比の小数点第二位以下は省略した。がんの標準化死亡比の全国比較は本邦初である。

がん標準化死亡比とは、「当該地域で観察された実際のがん死亡数」を、「全国」の性年齢階級別死亡率と当該地域の性年齢階級別人口とを掛け合わせ、合計した期待死亡数」で割り、一〇〇倍した数値である。年齢構成や人口の違いの影響を取り除いて標準化した数値なので、年齢や人口が異なる市区の比較などに使われる。一〇〇が全国標準であり、それより大きければその地域の死亡状況が全国より悪く、一〇〇より小さければ標準よりよいことを意味する。掲載した数値は、各市区の一〇〇

がん標準化死亡比 ワースト 30 位

気管、気管支及び肺 小数点二位以下省略

(人口10万人以上)				
	地域	数字	地域	数字
1	大阪府 東大阪市	133.2	北海道 釧路市	152.3
2	大阪府 門真市	130.1	福岡県 飯塚市	147.2
3	和歌山県 和歌山市	128.7	大阪府 大阪市	143.2
4	大阪府 大東市	127.2	北海道 苫小牧市	140.0
5	北海道 釧路市	124.2	大阪府 門真市	139.0
6	大阪府 大阪市	123.6	大阪府 大東市	138.9
7	長崎県 諫早市	122.0	大阪府 東大阪市	138.6
8	兵庫県 尼崎市	121.7	沖縄県 うるま市	136.7
9	北海道 小樽市	120.0	福岡県 北九州市	136.7
10	山形県 鶴岡市	119.5	東京都 台東区	135.4
11	愛知県 半田市	119.4	埼玉県 川口市	130.0
12	北海道 函館市	119.1	東京都 品川区	128.8
13	大阪府 和泉市	118.8	北海道 小樽市	128.5
14	福岡県 飯塚市	117.8	東京都 港区	128.1
15	青森県 弘前市	117.7	大阪府 堺市	127.4
16	大阪府 富田林市	117.6	兵庫県 神戸市	127.1
17	大阪府 羽曳野市	117.5	東京都 葛飾区	126.9
18	滋賀県 彦根市	117.5	東京都 足立区	126.2
19	大阪府 八尾市	116.9	長崎県 長崎市	126.2
20	大阪府 松原市	116.7	兵庫県 尼崎市	126.1
21	大阪府 河内長野市	116.4	大阪府 寝屋川市	125.7
22	沖縄県 うるま市	116.4	東京都 立川市	125.5
23	長崎県 長崎市	115.7	大阪府 松原市	125.5
24	新潟県 新潟市	115.6	東京都 荒川区	124.8
25	栃木県 佐野市	115.3	大分県 別府市	124.4
26	大阪府 堺市	114.6	埼玉県 川越市	124.3
27	埼玉県 川口市	114.6	東京都 江戸川区	123.3
28	新潟県 新発田市	114.6	沖縄県 浦添市	123.0
29	東京都 墨田区	114.4	北海道 札幌市	122.5
30	東京都 江東区	114.4	埼玉県 朝霞市	122.3

データソース：厚生労働省人口動態統計特殊報告「平成15年～19年人口動態保健所・市区町村別統計」
加工：日本医療政策機構・がん政策情報センター

がん標準化死亡比 ワースト 30 位

肝及び肝内胆管 小数点二位以下省略

(人口10万人以上)				
	地域	数字	地域	数字
1	福岡県 大牟田市	224.5	佐賀県 佐賀市	217.3
2	福岡県 久留米市	212.3	福岡県 久留米市	191.6
3	福岡県 飯塚市	183.5	大阪府 和泉市	173.8
4	兵庫県 尼崎市	175.1	広島県 尾道市	170.5
5	佐賀県 佐賀市	167.1	大阪府 大阪市	169.6
6	広島県 呉市	165.7	福岡県 大牟田市	168.2
7	大阪府 大阪市	164.7	広島県 呉市	167.3
8	広島県 尾道市	162.8	大阪府 松原市	165.3
9	大阪府 和泉市	162.4	福岡県 北九州市	164.2
10	兵庫県 姫路市	158.1	兵庫県 尼崎市	163.8
11	和歌山県 和歌山市	157.2	大阪府 門真市	161.7
12	大阪府 八尾市	156.8	愛知県 豊田市	158.7
13	大阪府 東大阪市	156.6	広島県 三原市	155.8
14	静岡県 富士市	155.7	福岡県 福岡市	155.6
15	静岡県 富士宮市	155.7	兵庫県 神戸市	150.2
16	福岡県 北九州市	153.8	大阪府 東大阪市	149.9
17	兵庫県 伊丹市	153.0	大分県 別府市	149.5
18	大阪府 羽曳野市	152.6	兵庫県 明石市	149.5
19	大阪府 富田林市	151.4	和歌山県 和歌山市	147.9
20	大阪府 大東市	150.4	大阪府 守口市	147.9
21	山口県 岩国市	148.9	兵庫県 伊丹市	145.8
22	大阪府 門真市	147.8	広島県 廿日市市	145.6
23	徳島県 徳島市	147.1	大阪府 豊中市	144.3
24	静岡県 沼津市	145.7	兵庫県 姫路市	143.9
25	愛媛県 松山市	143.2	福岡県 春日市	143.0
26	福岡県 福岡市	142.9	大阪府 大東市	142.8
27	大阪府 岸和田市	142.9	大阪府 富田林市	140.9
28	兵庫県 川西市	140.9	兵庫県 西宮市	139.3
29	兵庫県 神戸市	139.8	兵庫県 宝塚市	138.3
30	大阪府 松原市	138.8	大阪府 八尾市	137.7

データソース：厚生労働省人口動態統計特殊報告「平成15年～19年人口動態保健所・市区町村別統計」
加工：日本医療政策機構・がん政策情報センター

県飯田市、東京都練馬区が名を連ねる。掛川市と藤枝市、飯田市は女性の上位でもあり、胃がんや肝臓がんが目立って少ない沖縄県うるま市も女性のがん死が少なかった。

「同じように標準化死亡比が悪い都市でも、どこの部位のがんが多いかは地域によって異なります。都道府県や市区は、どの部位のがんが多いのかを分析して、肺がんによる死亡が多いのであれば重点的に肺がん検診やたばこ対策をするなど、地域に合ったアクションを起こす必要がある」と埴岡氏は話す。

がん標準化死亡比は、胃がん、大腸がん、肝臓がん、肺がんといった日本人に多いがんの部位別にも公表されている。そのうち、やはり、一〇万人以上の都市に限って死亡状況の悪いところを並べたのが30～31ページの表である。乳がん、子宮がんといった女性特有のがんについては、死亡数がほかのがんに比べて少ないためか、標準化死

がん標準化死亡比 ワースト 30 位

がん標準化死亡比 ワースト 30 位

大 陽 小数字三位以下省略					
(人口10万人以上)					
	地 域	数字	地 域	数字	
1	北海道 小樽市	153.1	東京都 台東区	150.8	
2	青森県 弘前市	148.9	青森県 弘前市	149.6	
3	青森県 青森市	146.7	岩手県 花巻市	147.7	
4	愛知県 瀬戸市	141.4	大阪府 守口市	143.8	
5	東京都 台東区	137.0	東京都 墨田区	134.7	
6	北海道 函館市	136.7	北海道 函館市	134.4	
7	東京都 墨田区	136.3	北海道 北見市	134.4	
8	東京都 葛飾区	131.2	奈良県 生駒市	132.8	
9	埼玉県 川口市	131.1	東京都 葛飾区	132.3	
10	長崎県 佐世保市	125.9	青森県 青森市	132.0	
11	北海道 苫小牧市	125.5	千葉県 八千代市	131.9	
12	岩手県 盛岡市	124.0	埼玉県 戸田市	131.2	
13	青森県 八戸市	124.0	新潟県 三条市	130.8	
14	富山県 高岡市	123.9	秋田県 秋田市	130.4	
15	東京都 足立区	123.7	北海道 小樽市	129.5	
16	東京都 江戸川区	123.4	東京都 港区	129.1	
17	新潟県 三条市	122.8	埼玉県 朝霞市	127.4	
18	埼玉県 三郷市	122.8	茨城県 取手市	127.0	
19	埼玉県 富士見市	122.6	愛知県 豊川市	126.4	
20	東京都 江東区	122.2	沖縄県 沖縄市	125.8	
21	東京都 品川区	121.7	愛知県 瀬戸市	125.5	
22	東京都 大田区	120.7	茨城県 ひたちなか市	124.0	
23	愛知県 東海市	120.4	山形県 酒田市	123.9	
24	東京都 荒川区	120.3	埼玉県 入間市	123.9	
25	福島県 郡山市	120.2	東京都 江戸川区	123.3	
26	沖縄県 那覇市	120.0	岐阜県 多治見市	122.7	
27	秋田県 秋田市	119.8	大阪府 大東市	122.4	
28	群馬県 桐生市	119.7	岩手県 盛岡市	122.4	
29	新潟県 新発田市	119.3	北海道 帯広市	122.0	
30	神奈川県 川崎市	118.9	埼玉県 深谷市	121.9	

小数字三位以下省略					
(人口10万人以上)					
	地 域	数字	地 域	数字	
1	新潟県 三条市	144.3	秋田県 秋田市	142.3	
2	埼玉県 深谷市	142.1	山形県 鶴岡市	140.9	
3	埼玉県 熊谷市	137.4	秋田県 横手市	139.8	
4	秋田県 秋田市	137.3	愛知県 岡崎市	138.9	
5	東京都 墨田区	136.7	岐阜県 大垣市	138.0	
6	新潟県 上越市	136.3	栃木県 小山市	134.2	
7	秋田県 横手市	132.3	栃木県 佐野市	134.1	
8	茨城県 土浦市	131.3	新潟県 上越市	133.4	
9	茨城県 筑西市	130.2	茨城県 土浦市	133.1	
10	青森県 弘前市	128.9	新潟県 三条市	132.6	
11	東京都 荒川区	128.9	愛知県 瀬戸市	131.3	
12	山形県 酒田市	126.9	岐阜県 各務原市	130.6	
13	埼玉県 戸田市	126.6	石川県 白山市	130.4	
14	埼玉県 鴻巣市	126.2	埼玉県 ふじみ野市	130.2	
15	栃木県 小山市	126.1	岩手県 奥州市	128.3	
16	青森県 青森市	126.1	愛知県 半田市	128.3	
17	富山県 高岡市	125.6	新潟県 長岡市	127.8	
18	新潟県 長岡市	123.0	埼玉県 草加市	127.8	
19	埼玉県 富士見市	122.6	岐阜県 岐阜市	126.9	
20	千葉県 木更津市	122.3	東京都 府中市	126.5	
21	新潟県 新発田市	121.8	埼玉県 川越市	126.2	
22	栃木県 佐野市	121.3	東京都 東久留米市	125.3	
23	埼玉県 ふじみ野市	121.1	東京都 西東京市	124.8	
24	愛知県 東海市	120.7	福岡県 春日市	124.0	
25	東京都 江戸川区	120.7	千葉県 我孫子市	123.4	
26	東京都 葛飾区	120.7	愛知県 豊田市	122.1	
27	奈良県 橿原市	120.6	山形県 山形市	121.6	
28	群馬県 太田市	120.5	栃木県 足利市	121.3	
29	栃木県 足利市	120.3	神奈川県 平塚市	121.0	
30	栃木県 那須塩原市	120.1	千葉県 浦安市	120.6	

データソース：厚生労働省人口動態統計特殊報告「平成15年～19年人口動態保健所・市区町村別統計」
加工：日本医療政策機構・がん政策情報センター

データソース：厚生労働省人口動態統計特殊報告「平成15年～19年人口動態保健所・市区町村別統計」
加工：日本医療政策機構・がん政策情報センター

○三〇〇七年の五年間の累積がん死亡数をもとに男女別に算出された標準化死亡比である。

一〇万人以上の都市の中で、男性のがん標準化死亡比が一番悪かったのは兵庫県尼崎市、二番目が青森県弘前市、三番目が青森市だった。尼崎市、弘前市、青森市、大阪市は全国標準の一・二倍以上、がんによる死亡が多いことになる。また、女性の場合は、東京都台東区、尼崎市、福岡県久留米市、大阪市、東京都墨田区といった都市部でがんによる死亡状況が悪かった。なお、一〇万人以上に限ったのは、年齢構成と人口の違いを調整している数値とはいえ、人口が少ない市町村では、対象となった五年間にたまたまがん死が多かった場合、数値の信頼性に問題が出るためである。一〇万人以上の都市は、小さな市町村に比べ、がん対策も打ちやすいはずだ。

上位五位には、男性で東京都国分寺市、静岡県掛川市、同県藤枝市、長野